

小学校・中学校英語科先生対象

TOEFL Primary® Step 1

と学校の教科書との語彙の相関性

(2025年版)

～TOEFL Primary® Tests Step 1 問題集と
東京書籍および三省堂の検定教科書の語彙の比較～

京都教育大学附属京都小中学校 英語科主任

ETS公認TOEFL Primary® / TOEFL Junior® トレーナー

メタメトリックス社公認 レクサイルエデュケーター

一般社団法人国際教育英語試験協会アドバイザー

今西 竜也

1. はじめに	p.1
2. TOEFL Primary® Step1 と学校の教科書の関係について	p.1
3. 語彙 (単語の力) について	p.3
4. TOEFL Primary® とは	p.4
5. 学習指導要領と関わって	p.6
6. おわりに	p.6

1. はじめに

ふいに外国人と英語で話す機会に遭遇した時、「あっ、これって英語で何て言うんだっけ」と頭を抱えてしまう経験がよくあります。そんな時、「英語はやっぱり単語だよな」と感じてしまうのですが、いったいどれだけの単語を知っていれば十分と言えるのでしょうか。例えば英語を母国語としている人は、小学生で5,000～10,000語ほど、大人では20,000～35,000語ほどの英単語を知っているそうです。日本の学校教育における英語の授業で習うのは、小学

校で600～700語程度、中学校では1,600～1,800語程度の単語を習うことになっています。生まれた時から英語を話している小学生が10,000語以下だと見ると、日本語を話しながら英語も学んでいる日本人は、なかなか多くの英単語を知っているように感じます。ただ、知っているだけではあまり役に立たず、読んだり聞いたりして理解できることや、言ったり書いたりすることが必要です。つまり英単語を使いこなす力が必要です。

表1 TOEFL Primary® Step 1 公式模擬テストにおける正答のための単語と各教科書がカバーする割合

	リーディング	リスニング	全体	期待されるスコア
小3・4年 Let's Try	39.5% (87語/231)	41.1% (106/258語)	39.5% (193/489語)	206～211 (CEFR A1)
小5・6年東京書籍	58.0% (134/231語)	59.7% (154/258語)	58.9% (288/489語)	
小5・6年三省堂	55.0% (127/231語)	56.6% (146/258語)	55.8% (273/489語)	212～217 (CEFR A2)
中学校東京書籍	84.4% (195/231語)	84.5% (218/258語)	84.5% (413/489語)	
中学校三省堂	85.7% (198/231語)	86.8% (224/258語)	86.3% (422/489語)	

2. TOEFL Primary® Step1と学校の教科書の関係について

学校で習う英単語は、どれくらい役に立つのでしょうか。TOEFL Primary®は、英語を話す地域での、自然で現実味のある場面の設定がされています。問題に登場する単語や表現も文法習得だけに焦点を当てたものではなく、日常でよく使われるものが多く登場します。出題される場面は友だちとの会話や学校の教室での先生の指示、家での

料理の場面など、ごく日常的なものばかりで、生活に根付いた基本的な表現ばかりです。つまり英語が話されている国での小学生の日常と言えます。出題されている問題の単語について、株式会社ダンケゼア発行のTOEFL Primary® Tests Step 1 問題集（非売品）からTOEFL Primary®Step1の模擬テストを取り上げて比べてみます。リー

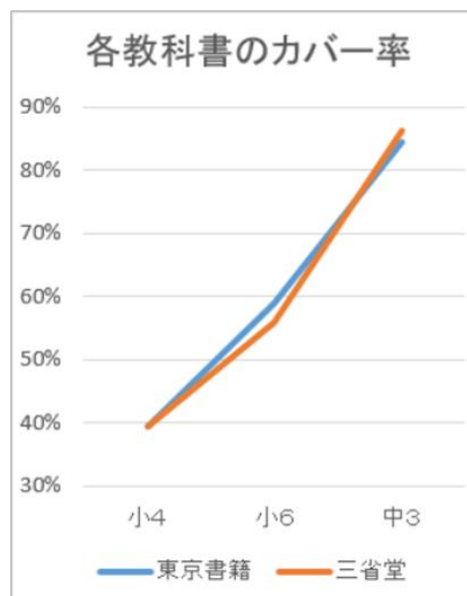
ディングセクションとリスニングセクションの問題文と選択肢から、正解するのに必要となる単語を数えたところ、リーディングセクションでは231語、リスニングセクションでは258語、合計489語になりました。つまりこのテストではこれら489語を使いこなせるようになっていけば全部正解できる可能性があるのです。

学校で習う単語を見ていきましょう。現在、小学校では600～700語程度、中学校では1,600～1,800語程度の単語を習うことになっています。学校で使っている教科書は地域ごとに違い、それぞれ6種類ずつありますが、どの教科書でも上記の数の英単語が登場します。ではTOEFL Primary® Step1の正答のための489語はどれくらい教科書に登場するのでしょうか。小学校3・4年生で使われている教科書Let's Tryと、小学校と中学校で多く使われている東京書籍と三省堂の教科書に出てくる単語を調べてみました。

TOEFL Primary® Step1に出てくる単語は、elephant, school, treeなどの名詞や、cook, find, playなどの動詞、happy, long, newなどの形容詞、in, on, underなどの前置詞などです。小学校3・4年で使う教科書Let's Try 1と2では全部で約650語の単語がありますが、TOEFL Primary® Step1正答のための語の中の193語が含まれています。これは全体の39.5%です。5・6年の東京書籍の教科書New Horizon Elementary 5と6では288語（58.9%）、三省堂の教科書CROWN Jr. 5と6では273語（55.8%）です。中学校3学年では東京書籍のNew Horizonが413語（84.5%）で、三省堂のNew Crownでは422語（86.3%）です。つまり、小学校の4

年を終えたときに、TOEFL Primary®では約40%を正答する単語の力があるのです。さらに小学校を卒業するころには60%近く、中学校卒業のころには80%以上の語をマスターすることができるのです。ただし、小学校と中学校の教科書の単語を覚えればいいんだと安直に考えてはいけません。知っているだけでは役に立たないのです。どんな音で聞こえるのか、どんな時に使われるのか、ということもしっかり身に付けていきましょう。特に英語を話すときに、その単語を使って伝わるように練習するのが一番です。どのように使うのか、発音するのかがわかれば、どのように聞こえるのかがよくわかります

ちなみに、どの教科書にも登場しなかった単語は、blanketやterminalのような、カタカナでも理解されるもののほか、rubやmessyのような、日常では使われるが日本の教科書では他の表現で言い換えることができるようなものでした。



教科書で確認されなかった語の例
 rocket, blanket, pillow, pour, sharpen, mailman,
 package, rub, bend, princess, terminal, lemonade,
 messy, mud など

3. 語彙（単語の力）について

英語をマスターする上で単語の力が重要であることは言うまでもありません。しかし高校や大学受験の際にたくさんの英単語を覚えた日本人でも、どれだけ役に立つ覚え方をしているのかは怪しいものです。例えば英語で日記を書いてみると気づかされるのですが、朝起きて、学校や職場に交通機関を使って行って、働いて、昼食を食べて、、、と書いているうちに、身近にあるけれど英語で何て言うかわからないものがいくつも見つかります。改札、交通系ICカード、階段、歩道、定食屋、ライスの大

盛り、おかわり、、、全部英語で言えますか。今自分の周りを眺めて、言えないものも見つかるのではないのでしょうか。今私の周りには、パソコンや教科書の他に、参考書、古紙回収箱、空気清浄機、掛け軸、スタンドライト、輪ゴム、熱帯魚の水槽などが見えますが、英語で言うのが難しいものもあります。ところで、英語学習者にとっての語彙（単語の力）とはどんなものなのでしょうか。単語にはいろいろな力が関わっています。Shoppingを例に見てみましょう。

表2 単語に関わるいろいろな力

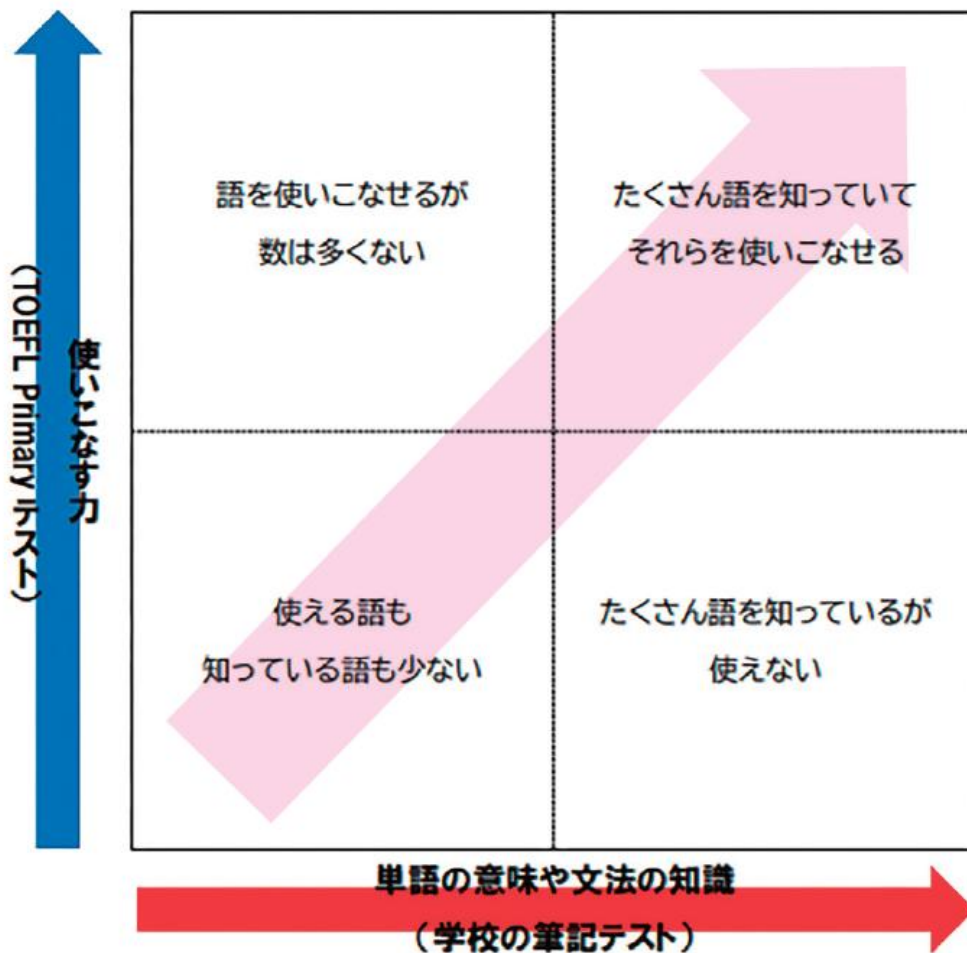
①意味を知っている	shopping が「買い物・ショッピング」という意味だとわかる
②読み方を知っている	shopping が「ショッピング」と読める
③正しく文で使える	shopping を名詞として文中の正しい位置に置くことができる
④正しいアクセント	o にアクセントを置いて言うことができる
⑤正しく発音できる	shopping を /ʃɒpɪŋ/ (シャピンぐ) と発音できる
⑥聞いてわかる	/ʃɒpɪŋ/ (シャピンぐ) と聞いて shopping だとわかる
⑦語のつながりの認識	動詞や前置詞などと一緒になっても語を認識できる

(ただし、発音のひらがな表記は Wainwright(2001)を参考とした。)

上記のすべてができて初めて使える単語の力と言えるでしょう。日本人の英語の先生には通じて、外国人には伝わらなかった経験はありませんか。知っている単語のはずなのに、聞いてもその単語だとわからなかったことはありませんか。それは shopping の読み方や意味を知っているだけで、使いこなせるレベルに達していないからなのです。学校での英語の筆記テストでは①②③か④くらいまでができれば大丈夫でしょうが、英語を使って話したり聞いた

りするためには、⑤も⑥も⑦も大切になってきます。あなたの単語の学習はどうでしょうか。知識ばかりではなく、使いこなせる力もついているのでしょうか。

筆記テストで問われることが役に立たないわけではありません。「知識」と「使いこなす力」が一緒になって、本当に使える力になるのです。では、使いこなす力を測る TOEFL Primary® はどんなテストなのでしょうか。



4. TOEFL Primary® とは

TOEFL Primary®は世界47以上の国と地域で実施されている世界基準のテストで、英語を母国語としない小中学生を対象にしたテストです。日本の学校の定期考査のような文法や単語の知識を問うためのものではなく、実際に英語を使うことを重視して設計されています。Step1とStep2があり、Step1は英語初級学習者を、Step2は英語でコミュニケーションがとれる学習者を対象としていて、学校や家庭等の身近な場面における基本的な表現を出題しています。試験の結果は合格・不合格で示すのではなく、スコアで示すほか、言語の習得状況を示す世界基準のCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）と読解力を示すLEXILE®（レクサイル）が示されます。また、TOEFL Primary®

は、TOEFL Junior®やTOEFL iBT®につながるテストでもあります。

TOEFL Primary®では、設問の場面設定が、学校、家、遊び場などの、小学生や中学生が実際に生活する場面が多く登場します。その他、留守番電話のメッセージや誕生日会の招待状、ショッピングでの店員との会話など、日常生活の延長線上に感じることができる場面が設定されています。また英語の内容も、先生の指示や友達との会話が多く設定されているほか、不定詞や疑問詞などを使った表現もありますが、教科書で目にした表現や先生の話す英語で触れる表現が大半です。もちろん、英語を話す人にとって自然なスピードで話される英語ばかりです。

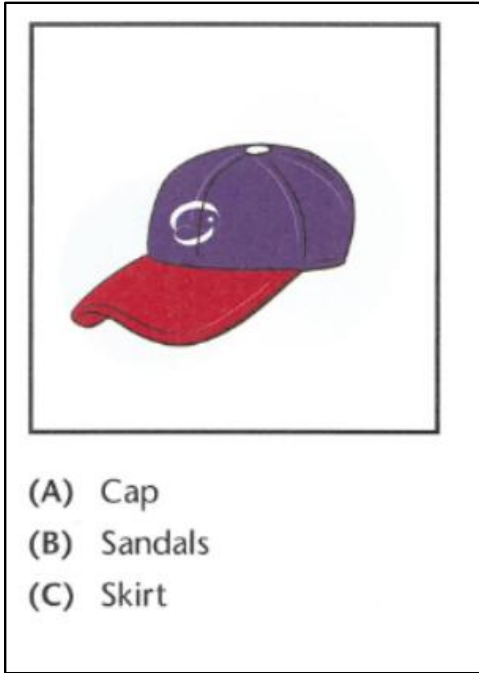


図1 絵に合う語を選ぶ問題



図2 科学センターのパンフレットから情報を得る問題

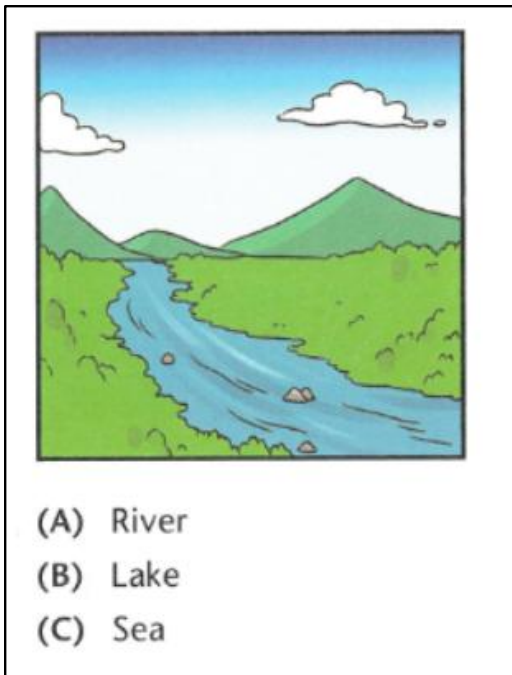


図3 絵に合う語を選ぶ問題

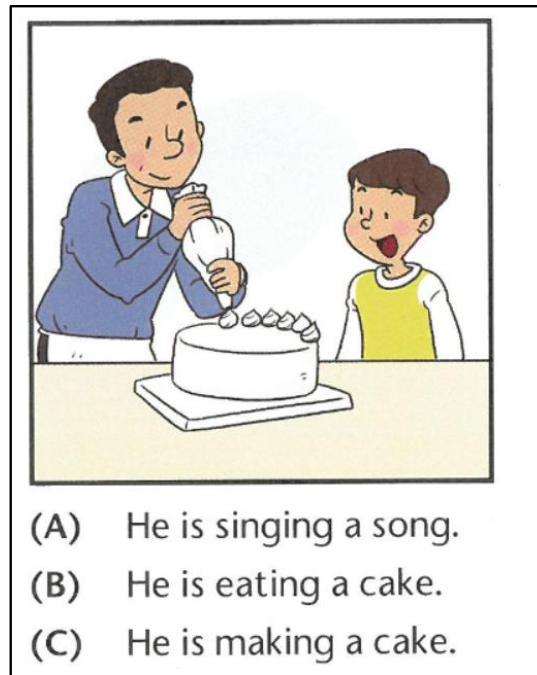


図4 絵に合う文を選ぶ問題

出典：TOEFL Primary® Tests STEP 1 (著者：METACURIO INC.) / 株式会社ダンケゼア

5. 学習指導要領と関わって

文部科学省が、学校で教える内容を定めている基準があり、それを学習指導要領といます。中学校の英語では、「読むこと」「話すこと」の力をさらに高めて、「読むこと」「話すこと」「書くこと」「聞くこと」を総合的に学ぶ、になっています。ですから、単語を書いたり読んだりするだけでなく、聞いて理解したり、正しく言って伝えたりすることが必要なのです。また目的や場面、条件に合わせて日常的な話題や社会的な話題について情報やアイデアを理解することも求められています。それらは中学生のみなさんにとって、家の中での家族との会話や、学校での友だちや先生とのやり取りですね。

「聞くこと」（リスニング）を例に挙げれば、学習指導要領の目標では、「はっきりと話される日常的な話題について、①必要な情報を聞きとる、②話の概要を捉える、③短い説明の要点を捉える」となっています。小学校では「ゆっくり、はっきり」となっていたことを考えると、中学生では「ゆっくり」ではなく「自然な英語のスピード」で聞き取れる力を目指していかなくてはなりません。文部科学省が

示している「総合的な英語の力」「自然な英語の言い回しやスピード」「日常的に接する場面」がTOEFL Primary®に含まれています。

また、文部科学省はMEXCBT（メクビット）という、オンラインで学習や学力の調査や評価ができるCBT（Computer Based Testing）を進めていて、全国の学校で使用できます。MEXCBTでは国語、算数、理科などの、全国学力・学習状況調査の問題や、千葉県やさいたま市などの地方自治体が作成した問題が搭載されています。さらに、2024年度からはTOEFL®を開発するETS（Educational Testing Service）が作成した英語の「書くこと」「話すこと」を中心とした問題100問が搭載されました。これらの問題はCEFRに紐づけられており、ほとんどの問題がTOEFL Primary®やTOEFL Junior®の問題と同じく、学校や家庭、友だちとの場面を想定しており、日本が目指すべき英語の力が、日常生活で実用的な力であることが見て取れます。

6. おわりに

何年も前の話ですが、アメリカに留学した日本人の高校生がいました。英語にはちょっと自信があったのですが、実際にアメリカに行き、ホストファミリーや学校の先生やクラスメイトと話しても

全然通じませんでした。英語が聞き取れず、話している英語も理解してもらえなかったのです。ある日、英語を紙に書いて先生に見せるとしっかり伝わりました。それから先生と彼はコミュニケーション

をとるときには、目の前にいても紙に言いたいことを書いたのです。先生は言いました。日本人は話すのが苦手だけど、書くのは得意みたいだと。

その留学生は私です。日本の学校でテストの出来が良かっただけで英語に自信を持っていましたが、それは英語の知識でしかありませんでした。せっかく英語の授業を受けてきたのに知識だけで、使える英語の力ではありませんでした。

みなさんが英語の授業で習っていることは、使えるようになることを意識して学べば、将来役に立つことばかりです。英語が楽しくなる時は、英語が使えたときです。相手に伝えたいことが伝わること、相手の言っていることがわかること、それらができるとどんどん英語は楽しくなるのです。ぜひとも使える英語の力を身に付けて、どんどん上達してください。

参考文献

Hsueh-Chao, M. H., & Nation, P. (2000). Unknown vocabulary density and reading comprehension.

Laufer, B. (1989). 25 What Percentage of Text-Lexis is Essential for Comprehension?. *Special language: From humans thinking to thinking machines*, 316.

Wainwright, A. (2001). 親子ではじめる英会話絵じてん. 三省堂.

相澤一美. (2010). 語彙知識と英文テキストの理解 高校上級用読解教材選択の指針を求めて. *教材学研究*, 21, 7-14.

羽鳥博愛. (1982). 心理言語学と英語教育. 大修館.

著者紹介

今西 竜也

所属: 京都教育大学附属京都小中学校 英語科主任

学歴: 京都教育大学大学院教育学研究科修了

在籍: 京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程、英語教育の研究

編集協力: 三省堂 クラウンジュニア

資格: ETS公認TOEFL Primary® / Junior® トレーナー

TOEFL Primary®/TOEFL Junior®
についての最新レポート

